

長崎港活性化対策特別委員会 総括質疑順序(案)

分類	順序	質疑項目・要旨	委員名
分類 1 長崎港における貿易	1	長崎港におけるコンテナ貿易の推移、現状及び課題について 長崎港におけるコンテナ貿易量は、九州内の他港と比較して低い水準となっている。 長崎港におけるコンテナ貿易量の推移や、貿易量を増やす上での課題について伺いたい。	平野 剛
	2	長崎-釜山航路における貿易の今後の見通しについて 現在定期航路が就航している長崎-釜山航路における貿易の今後の見通しを伺いたい。	梅原 和喜
	3	柳埠頭のコンテナ荷役用クレーンの整備状況について 柳埠頭に設置されているコンテナ荷役用クレーンの整備状況について伺いたい。	梅原 和喜
分類 2 クルーズ船の受入態勢	4	クルーズ船観光客の消費拡大に向けた取組について クルーズ船の来航状況及び消費の状況について伺いたい。さらに、消費拡大のため、市はどのように取り組んでいくのか。	山谷 よしひろ 平野 剛
	5	クルーズ船による経済効果拡大に向けた長崎県と長崎市の役割分担について	山谷 よしひろ
	6	佐世保港との比較の検証について	山谷 よしひろ
	7	クルーズ船のオーバーナイト誘致について (1) 長崎港へ寄港するクルーズ船をオーバーナイトさせるため、船への燃料供給や廃棄物処理などの港湾サービスの充実や、2つの世界遺産をテーマに、周辺自治体と一体となった周遊の取組が必要でないか。 (2) 日帰りのクルーズ船は、市内への経済効果が限られている。経済効果拡大のため、オーバーナイトのクルーズ船を増やしていくべきと思うが、誘致に対する市の考えを聞きたい。	澤勢 みずき 阿部 のぞみ
	8	ベイエリアの回遊性改善について 現地調査で確認した課題（動線・交通・受入環境）と、クルーズ船受入態勢資料の改善点を比較し、施策の実効性について質問したい。 乗下船動線・バス配車・市内回遊データを踏まえ、ベイエリア・中心市街地への波及効果が十分であるものと考えているのか。 また、元船地区のMICE・商業エリア再整備計画との連動性を高めるため、ソフト施策（案内・人員配置・回遊促進）の今後の強化方針について伺いたい。	山本 信幸

長崎港活性化対策特別委員会 総括質疑順序(案)

分類	順序	質疑項目・要旨	委員名
分類 3 長崎港周辺の整備	9	元船地区整備事業について 事業実施においては市への財政負担が想定されるが進捗状況も含めて伺いたい。	中西 敦信
	10	元船地区の再整備について 元船地区は軍艦島クルーズの発着や商業施設もあり、多くの人が集まる場所である。現在、県においてPFIなどを活用した再整備が検討されている。観光コンテンツの一つとして、食の拠点づくりなどのにぎわい施設が必要であると思うが、元船地区の整備方針について伺いたい。	福澤 照充
	11	2バース化について 松が枝国際観光船埠頭の2バース化事業における現在の計画と進捗状況を尋ねたい。	山谷 よしひろ
	12	松が枝地区の背後地の整備について (1) 松が枝地区における2バース整備が完成することで、インバウンドを中心としたクルーズ船による来訪者が増えることが予想される。より一層の来訪者増、地域における経済効果を増やすためにも、背後地の魅力的な整備は不可欠であるが、今後の方針を伺いたい。 (2) 洋館を活用したにぎわいの創出について、今後具体的にどのような事業を進めていくのか、地元地域との連携も含めて伺いたい。	福澤 照充 中西 敦信
	13	長崎港整備の経過と将来計画との整合性検証について 「これまでの整備経過」と「将来計画」のうち、今年度調査で判明した課題・遅れ・不整合の有無について確認の上で質問したい。 バイエリアの現状調査などを踏まえたうえで、松が枝周辺地区整備構想などの整備方針との整合性がどこまで確保されているかさらに検証が必要と考える。 そのうえで、港湾管理者である長崎県と2026年度以降に重点化すべき整備項目・投資配分の見直しが必要と思うが、見解を伺いたい。	山本 信幸

長崎港活性化対策特別委員会 総括質疑順序(案)

分類	順序	質疑項目・要旨	委員名
分類 4 長崎港湾の利活用に係る体制	14	長崎港湾の人流に関わる港湾利活用の運営主体について  現在の長崎港湾は県の管轄の下にあり、土木や人流の管理など「管理」に関わる部分は県が行っているが、クルーズ船観光客や市民の移動、にぎわい創出など「人流」に関わる港湾の利活用に関しては、運営主体が見えにくい。 市としてはこの運営主体がどこであると認識しているのか。 また、課題を感じているとすれば、港湾の現状に対して市はどのように課題を分析しているか。	阿部 のぞみ
	15	県や関係事業者と長崎港湾に対して常時相談できる体制の構築について  港湾の経済効果をより積極的に長崎市内に波及させ、市民・事業者のニーズを迅速に運営に反映するためにも市が主導すべきと考えるが、そのような考えはないか。 また、その実現のためには、市民・事業者からの要望の一元的な窓口機能と、要望やアイデアを県や関係事業者と協議し、対応をスムーズにするためのテーブル機能を併せ持った常設の協議体の設置が必要と考える。 市の主体性強化とガバナンス改革の第一歩としてその必要性や有効性をどう認識しているのか。 実現に向けて具体的に行動する考えはあるか。	阿部 のぞみ
分類 5 カーボンニュートラルの推進	16	荷主・船会社から選ばれるカーボンニュートラルポートへの取組について  客船から選ばれる港づくりのために、クルーズ船用陸電供給等の取組の推進について、長崎市から県に働きかける考えはないか。	平野 剛
	17	カーボンニュートラル推進補助制度の実効性について  市内には「GX推進事業費補助金」「チャレンジ企業応援補助金」「海洋産業人材育成支援事業費補助金」など、脱炭素社会の実現に向けた制度が整備されている。一部制度については活用件数が極めて少ない状況がみられたが、市としては原因をどのように分析しているか見解を伺いたい。	澤勢 みずき
	18	脱炭素に向けた取組について  経済成長に向けて、長崎港の脱炭素化を契機として、さらにGXの取組を推進させる必要がある。 今後、市内事業者のGX分野への参入及び産業集積の取組をどのように進めていこうとしているのか。	中西 敦信
	19	洋上風力発電に対する取組について  洋上風力発電については、国策で取組が進められており、また、長崎県においても、五島市や西海市などで建設に向けた取組が進められている。あわせて、裾野も広くおおきな経済波及効果も期待され、また、市内造船業で培ってきた技術・技能が転用できる分野であることから、長崎市は是非ともこのチャンスを生かすべきだが、長崎市はどのような部分で関わっていき、市内事業者の参入の動きを後押ししようと考えているのか。	平野 剛